第89期

中間報告書

平成21年4月1日▶平成21年9月30日

証券コード：2204

株式会社 中村屋

【経営理念】 新たな価値を創造し、健康で豊かな生活の実現に貢献する。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに中村屋グループ第89期第2四半期（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）における事業の概要をご報告申し上げます。

代表取締役社長　染谷　省三

◆当第2四半期の概況

当第2四半期中のわが国経済は、個人消費が引き続き低迷する厳しい状況で推移いたしました。菓子・食品業界においては、食に対する「安全・安心」に関する意識の強まりに加え、低価格志向やニーズの多様化が進展し、更なる企業努力が求められております。中村屋グループは経営方針である「お客様満足の追求」「品質第一主義の徹底」「自主自立の確立」に基づき、企業価値向上への諸施策の具現化を進め、変化や競争に強い企業グループの実現に努めてまいりました。

当第2四半期の連結売上高は景気減速による消費低迷の影響から、16,614百万円、前年同期比828百万円、4.7%の減収となりました。収益面では、売上高減少による粗利益減少の影響が大きく営業損失は1,131百万円、前年同期比459百万円、経常損失は1,116百万円、前年同期比445百万円、四半期純損失は813百万円、前年同期比320百万円とそれぞれ減益となりました。

◆対処すべき課題

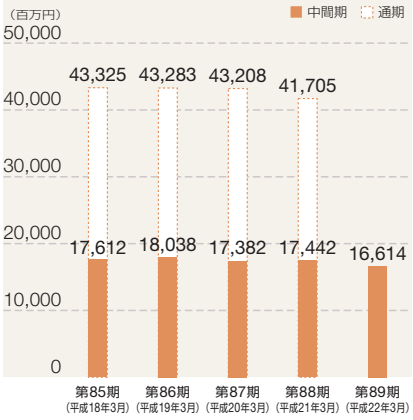
国内景気の後退、資源価格の変動、人口減少による市場の縮小等企業を取り巻く環境は大きく変化しております。こうした厳しい経営環境の変化に対応するために、平成20年度に策定した中期経営計画「イノベーションプランN21」の中で、「成長戦略の推進と新たな分野への参入」「経営の効率化による企業体質の強化」「資産活用計画の推進」を中期方針として定めておりますが、今後、その具体的な諸施策を実行し、より一層の「お客様満足の向上」「企業価値の向上」に取り組んでいく所存でございます。

株主の皆様におかれましても、引き続き一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

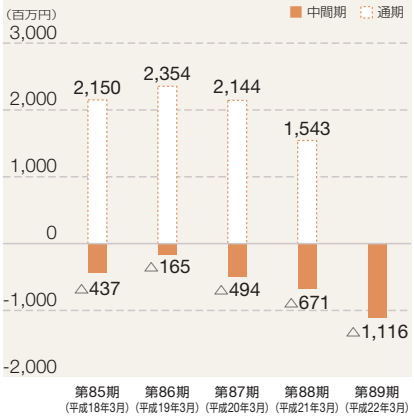
当第２四半期のポイント

● 新製品開発や商品改良を積極的に行い収益確保に努めましたが、個人消費の低迷に加え天候不順の影響もあり、売上高が減少しました。

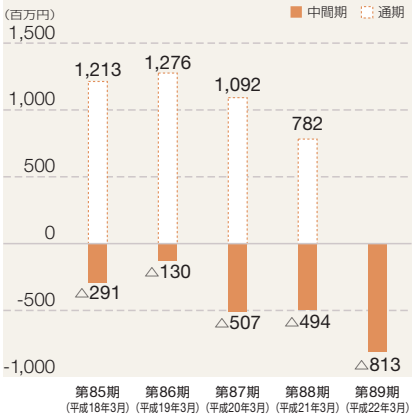
連結売上高



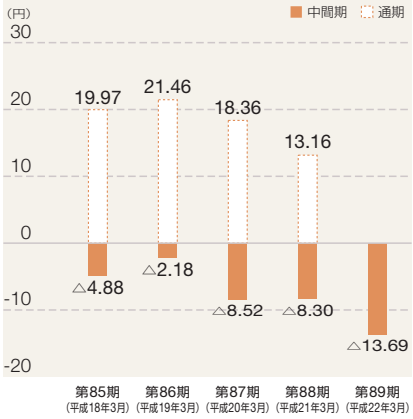
連結経常利益又は損失



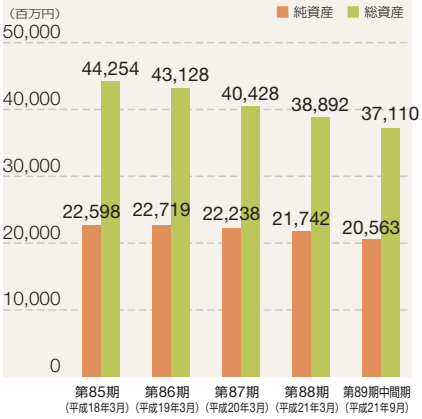
連結当期純利益又は四半期純損失



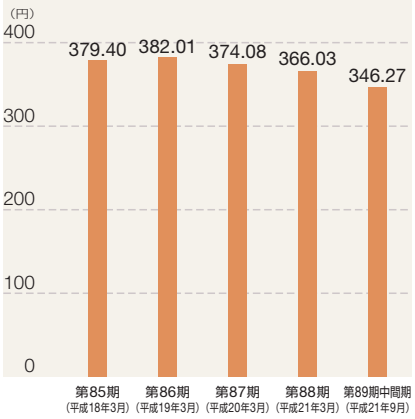
一株当たり当期純利益又は四半期純損失



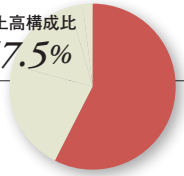
純資産／総資産



一株当たり純資産



菓子事業



売上高9,543百万円
（前年同期比3.9%減）

本年も新商品開発や商品改良を積極的に行いました。

パックデザート類では、お客様のニーズに合わせ“和風”“ジャストプライス”“バラエティー感”“パッケージの高級感”などをキーワードとして商品開発を行い、夏のギフト商戦の競争力を高めました。

贈答和菓子類では、代表商品の「月餅」「桃山」「碌山」を現代の嗜好にマッチさせ、“小型化”“上質化”した「新自慢詰め合わせ」や彩りの良いしっとりとした食感のマドレーヌ生地で各種あんを包んだ「あんづつみ」を新発売しました。

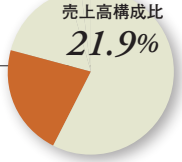
中華まんじゅう類では、「上質化」嗜好にあわせ国産豚肩ロースや北海道産小豆など、こだわりの原材料を使用した「肉まん」「あんまん」を量販店やコンビニエンスストア販路向けに開発し投入いたしました。

店舗展開では、月餅の専門店「円果天」に続き伊勢丹本店に本物素材を使用した和風デザート専門店「ISSUI（イッスイ）」を出店し、食のスタイルを提案するショップとして、好評を頂いております。また、新たな取り組みとして、寒天をベースとした新感覚デザートショップ「かんてん舎」をショッピングセンターに出店させました。

肉まん、あんまん

「ISSUI」和風デザート

食品事業



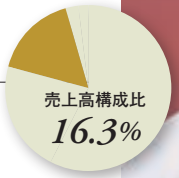
売上高3,643百万円
（前年同期比6.9%減）

業務用食品事業では、当社の主要取引先であるファミリーレストラン業態が低迷を続ける中で、当社の調理技術を生かしたメニュー提案を積極化させ、カリー類、ソース類での新たな取引先獲得に努めました。

市販食品事業では、家庭用レトルト食品として小容量ニーズに応え好調に推移しているミニシリーズに新たに3品を加え、発売しました。また、生協・通販向け商品開発や販促企画を行い、売上確保に努めました。

ミニシリーズ

飲食事業



売上高2,714百万円
（前年同期比5.9%減）

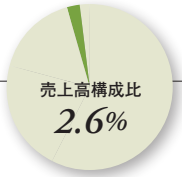
本店では新宿移転百周年にあわせた写真展やチャリティー活動など各種記念イベントを実施しました。「インドカリーチャリティー」では、9月1日にインドカリーを感謝価格700円で提供し、日頃のご愛顧に感謝するとともに、当日のカリーの売上金全額を社会貢献団体（WFP）に寄付しました。

直営レストラン「オリーブハウス」「インドカリーの店」では、品質向上の取り組みや季節感のあるメニュー開発を進め、お店の魅力度向上に努めました。

「オリーブハウス」ディナーセット

新宿本店

不動産賃貸事業

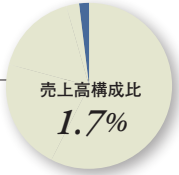


売上高430百万円
（前年同期比0.8%減）

笹塚NAビルは、景気悪化により賃料水準が低迷しオフィスビル環境が厳しい状況の中で、環境対応を進め、ビルに付帯するスポーツ施設を強化する等ビルの付加価値向上に努めた結果入居率100%を継続し、売上高は堅調に推移しました。

笹塚NAビル

その他の事業



売上高284百万円
（前年同期比1.5%増）

スポーツ事業として展開している笹塚NAビル内の会員制スポーツクラブ「NAスポーツクラブA−1」では、昨年実施した店舗改装に加え、お客様へのきめの細かいメニュー対応や会員サービスなど多方面で魅力度向上に努めた結果、会員数は増加しました。

NAスポーツクラブA-1

四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（平成21年9月30日現在）	前第2四半期（平成20年9月30日現在）	前期（平成21年3月31日現在）
資産の部			
流動資産	8,859	8,448	10,575
固定資産	28,251	29,122	28,317
有形固定資産	22,503	23,117	22,857
無形固定資産	678	860	749
投資その他の資産	5,071	5,145	4,711
資産合計	37,110	37,570	38,892
負債の部			
流動負債	7,982	7,999	8,602
固定負債	8,565	8,496	8,548
負債合計	16,547	16,495	17,150
純資産の部			
株主資本	20,618	20,772	22,033
資本金	7,469	7,469	7,469
資本剰余金	7,578	7,578	7,578
利益剰余金	5,723	5,855	7,131
自己株式	△ 153	△ 130	△ 146
評価・換算差額等	△ 55	302	△ 291
その他有価証券評価差額金	△ 55	302	△ 291
純資産合計	20,563	21,075	21,742
負債・純資産合計	37,110	37,570	38,892

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（平成21年4月 1日から 平成21年9月30日 まで）	前第2四半期（平成20年4月 1日から 平成20年9月30日 まで）	前期（平成20年4月 1日から 平成21年3月31日 まで）
売上高	16,614	17,442	41,705
売上原価	9,994	10,328	23,821
売上総利益	6,621	7,114	17,885
販売費及び一般管理費	7,752	7,786	16,370
営業利益又は損失（△）	△ 1,131	△ 672	1,515
営業外収益	44	57	141
営業外費用	29	56	113
経常利益又は損失（△）	△ 1,116	△ 671	1,543
特別利益	0	23	38
特別損失	99	5	177
税金等調整前当期純利益又は四半期純損失（△）	△ 1,215	△ 653	1,405
法人税、住民税及び事業税	34	33	534
法人税等調整額	△ 436	△ 192	88
当期純利益又は四半期純損失（△）	△ 813	△ 494	782

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（平成21年4月 1日から 平成21年9月30日 まで）	前第2四半期（平成20年4月 1日から 平成20年9月30日 まで）	前期（平成20年4月 1日から 平成21年3月31日 まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 650	△ 1,280	1,493
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 172	538	△ 518
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 630	△ 1,325	△ 1,073
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,452	△ 2,066	△ 98
現金及び現金同等物の期首残高	3,285	3,383	3,383
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	1,833	1,317	3,285

（注）記載金額は、百万円未満を四捨五入で表示しております。

このコーナーでは「中村屋ならではのモノ・コト」や「中村屋の今」にスポットを当て、その詳細に迫ります。

中村屋本店、新宿移転百周年

乗降客数日本一の東京・新宿駅。その東口に中村屋は本店を構え、パン・菓子の販売やレストランの運営を行っています。しかし、中村屋がこの地での第一歩を踏み出した明治42年、新宿は荒んだ場末で、中村屋は一(いち)パン屋に過ぎませんでした。

中村屋が新宿に移転して今年で100年。今回はその歴史の中で4つの出来事にスポットを当てました。

明治42年

和菓子の販売

新宿移転当時の中村屋

中村屋の創業者 相馬愛蔵は、市電の終点である新宿に興隆の兆しを感じ、明治42年、お店を本郷から現在地に移転します。そして、売上拡大とこの地での定着を図るため、和菓子の販売を開始しました。パン屋の和菓子を受け入れてもらうため、材料を精選し、適正な価格で提供します。

大正末～昭和初期

関東大震災と百貨店の新宿進出

発売当時のインドカリーセット

関東大震災により都心は壊滅しますが、新宿は無事でした。そこで、中村屋は被災民のために夜通しでパンや饅頭を作り供給します。震災後、新宿は急速に開発が進み、百貨店の出店が相次ぎますが、震災時に築かれた中村屋の信頼と、創業者の創意工夫により、中村屋は新宿の発展をチャンスに変えます。「月餅」「中華まん」「インドカリー」を発売したのもこの時でした。

昭和23年～

戦後復興

灰燼に帰した新宿

昭和20年の空襲により、新宿と中村屋は灰燼に帰しました。しかし、終戦後すぐに、新宿大通り沿いに大露店市場が生まれるなど、新宿が持つ大きな力が胎動します。中村屋は昭和23年に復興し、戦前の商品の復刻と新商品の開発に努めました。

昭和54年

店舗形態の変更

現在の本店内観(3Fレガル)

新宿中村屋が現在の形になったのは昭和54年。当時の時代背景に合わせ、飲食主体のビルへと転換しました。人々のライフスタイルの変化を捉え、軽食からパーティーまで、お客様のご要望に応じ利用できる店舗作りを行いました。

中村屋本店は新宿とともに歩み、成長し、新宿での百周年を迎えることができました。
今改めてその月日を思い、そしてこれからも1日1日を大切に積み重ねてまいります。

※中村屋ウェブサイトにて「100枚の写真が語る 本店100年」を掲載中です。そちらも併せてご覧ください
URL：http://www.nakamuraya.co.jp/100/index.htm （平成22年3月31日まで公開予定）

会社概要

概要

創業	明治34年12月30日
設立	大正12年4月1日
資本金	74億6,940万円
発行済株式総数	5,976万株
営業内容	各種和洋菓子・パン・その他食料品の製造、販売ならびに飲食店の営業
従業員数	925名

（上記の他臨時従業員が期中平均1,200名おります。）

役員

取締役会長	長沼　誠	常勤監査役	長峰 一眞	執行役員	御厨 久司
代表取締役社長	染谷 省三	常勤監査役	波多　正	執行役員	平林 盟久
取締役兼常務執行役員	小林 政志	監査役	原　秋彦	執行役員	小庄 秀範
取締役兼常務執行役員	小林　恒	監査役	荒井 英夫	執行役員	飯田 次雄
取締役兼執行役員	飯山 一伸	執行役員	三方 千博	執行役員	鈴木 達也
取締役兼執行役員	二本松 壽	執行役員	杉山 敏行	執行役員	赤石　実
取締役兼執行役員	藤木 裕人	執行役員	小川 俊久		

（注）監査役原秋彦・荒井英夫の両氏は社外監査役であります。

株式の状況

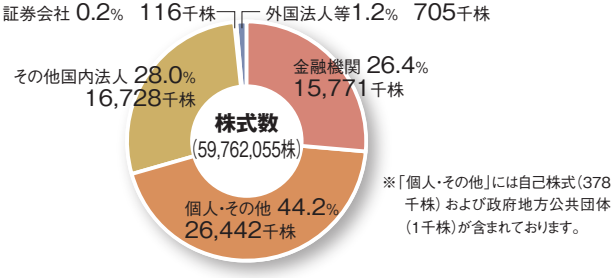
発行可能株式総数	199,044,000株
発行済株式の総数	59,762,055株

（注）自己株式378,352株が含まれております。

株主数	8,569名

（注）前期末に比し78名減少いたしました。

所有者別株式分布状況



※「個人・その他」には自己株式（378千株）および政府地方公共団体（1千株）が含まれております。

大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）
中村屋取引先持株会	4,683
株式会社みずほ銀行	2,925
三井不動産株式会社	1,800
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,454
日本製粉株式会社	1,301
中村屋従業員持株会	1,184
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,151
日東富士製粉株式会社	1,110
豊田通商株式会社	1,100
株式会社りそな銀行	1,000

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
公告方法	電子公告により掲載。ただし電子公告を行えない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社となります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		0120-288-324

お知らせ　株主優待券使用可能店舗の相鉄ジョイナス売店が、平成21年9月29日をもって閉鎖いたしております。株主の皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご了承をお願いいたします。

株式会社 中村屋

住　所：東京都新宿区新宿三丁目26番13号
電　話：03-3352-6161（大代表）
e-mail：webmaster@nakamuraya.co.jp
URL：http://www.nakamuraya.co.jp
〈お問合せ先〉総務・人事部
電　話：03-5454-7111

表紙の写真　当社代表商品である「月餅」を小型化し、コクのある味わいに仕上げました。伝統の味を現代の嗜好にマッチさせた新しい「月餅」です。平成21年9月に百貨店・NC店販路向けに新発売いたしました。　●本報告書の商品写真はイメージです。